

キャロちゃん

山中 咲空

ある大きな大きな畑に、仲良しな3人のにんじんさんがいました。名前はにんにんと、じんじん、それからキャロちゃんです。

畑のおじいちゃんが「おおきなあれ」って、土のお布団かけてくれたんだって。

3人は小さな小さな種の時からともだちで、畑でもずっとずーっといっしょにすごしてきました。

夏の暖かな土のお布団でお昼寝をして、雨の日も、風の強い日も、雪の日も、3人で乗りこえてきました。

そんな3人も、大きく立派に成長して、そろそろ収穫の時期がやって来ました。

3人がお布団からでるとすっごく寒くてびっくり!

「土のお布団に戻りたいね」

って、3人でお話をしていました。

ところが大変!

畑のおじいちゃんが、キャロちゃんを畑の端にポイって投げちゃいました。にんにんもじんじんもびっくり!

「キャロちゃん、どこー?」

「おーい! キャロちゃん!」

2人は必死に叫びましたが、おじいちゃんに連れていかれてしまいました。

「ここはどこ? 寒いよう。土のお布団に戻りたいよう」

キャロちゃんはたくさん泣きました。もうお外は真っ暗。初めて1人で過ごす夜です。

「こわいよう」

キャロちゃんは眠れませんでした。

お外はすっかり明るくなってお日様も元気です。

「わたし、すてられちゃったのかな? なんてだろう……」

キャロちゃんは不思議に思っていました。すると、ひとりの女の子が来て、キャロちゃんのことを抱き上げました。

「この子かわいい! ほしい!」

キャロちゃんは普通のにんじんとはちがって手と足があったのです。

女の子はお家に持って帰る、といっしょにお風呂に入って、キャロちゃんはきれいになりました。

キャロちゃんと女の子が遊んでいると、

「ただいまー」

おかあさんが帰ってきました。

「畑のおじいちゃんがにんじんいっぱいくれたのよ」

買い物袋には、にんじんさんがたくさんいました。その中には、にんにんも、じんじんも!

3人は、もう一度会えました。

3人は、お母さんが料理をして、もっともっときれいになったんだって。

そして、ずっとずーっといっしょに暮らしました。

おしまい